



◆◆◆◆◆

●勤務医に関する話題や投稿などで構成するコーナーです。勤務医生活の雑感、あるいは意見をこの欄にお寄せください。  
●投稿要領…700字程度、名古屋市昭和区妙見町19-2、愛知県保険医協会「勤務医コーナー」係まで。薄謝進呈致します。

## 誰のための歯科医師養成？ 合格率が抑えられている？

港区 江原雅博

今年も、新たな歯科医師が国家試験に合格し、はや四カ月が過ぎようとしている。今さらながら、三十五年前の何もできなかった自分を思い出し、患者さんに向かう気持ちを新たにす季節である。

近年、歯科医師国家試験の合格率は急激に低下して

いる。実際、近年は六〇％台（既卒者三〇％台）であり、いわゆる「昔前の」資格試験「確認試験」と言われていた合格率の高かった時代はすでに過去の話となっている。それにもな

まず、歯学部入学者が、

ストリートで大学を卒業し、国家試験も合格することが困難になっていることである。その数は半数しかなく、中には一三・二％という大学もある。

次に国家試験の出願は十月月であるが、翌年二月の受験までたどり着かないということがある。新卒出願者は二千四百五十二人、受験したものの二千八、その差四百五十二人、出願者の約二割に当たる数である。しかも国公立ではわずか二人であるが、私立では四〇％

を超える大学もある。卒業できなかったのか？  
これらの原因は、そもそも学生側の質に問題があるのか、教育機関である各大学の教育内容にあるか判断できないが、異常な状態といわれても致し方ない数字である。

人格的に、良質な資質を有する歯科医師を育成する、本来の歯学教育の目的が疎かになってはいないだろうか。多感な時代を、共に学び経験する仲間ではなく、試験の競争相手とみる学生生活を送っていないか心配である。

厚生労働省が発表した現状歯科医師数を維持するために必要とされる歯科医師国家試験合格者数は千二百人である。

歯科医師過剰が叫ばれ、国家試験の合格者が絞られてきているが、本当に過剰なのだろうか。確かに大都会の大きなビル街に立ってば、周りには多数の歯科クリニックの看板が目立つ。しかし、二年前父の認知症が始まった時、地方の三万都市でも歯科往診に来てもらえなかった。必要な人の二割しか行っていないとの報告もある。治療に時間のかかる高齢者や、障がい者が安心して受診できる、全国どこでも受けられる体制が整っているかといえば、政府の歯科に対する低医療費政策と共に寒いものである。国民の立場に立つ、医療政策、歯科医師養成を実現したい。